

よろず支援拠点だより <74>

今できることは全てやる覚悟

わかやま新報の読者の皆さま

まことにちは！

和歌山県よろず支援拠点チーフコーディネーターの鶴田です。昨年は飲食業に携わる人々にとって本当に災難の1年でした。新型コロナの感染者数が増えるたびに会食を避けることやマスク会食が呼び掛けられ、外食自粛ムードが漂いました。それはまるで「飲食を介して人々が交流する場を提供する」という価値そのものが否定されてしまったかのようでした。自店の努力ではもはやどうすることもできない事態に直面し、これまで築き上げた自信も資金も失いました。それでもこの事態を何とか乗り切ろうと奮闘を続ける事

業者がいます。

有田川町で天然調味料と鮮魚にこだわった和食店「糀ダイニング39シトラス」を経営されている苑田さまはその代表です。珍しい屋号ですが、由来はお客さまへの感謝の気持ち(サンキュー)。

毎朝、お店のトイレを苑田さま自ら清掃し、お客さまへの感謝を常に忘れない経営を実践されています。一方で販促にも積極的に、イラストレーターを駆使して店舗チラシを作製し、グループマイビジネスやインスタグラムには毎日映える料理がアップされています。確かな和食の技術に裏打ちされた彩り鮮やかな料理が女性に受け、ランチ時は女性客が半

数を占めるなど順調に成長する中でコロナ禍に直面しました。

しかし、緊急事態宣言下においてもテイクアウトメニューの開発からインスタでの告知と、いち早く巣ごもり需要に対応、売り上げの2割を占めるまでに育成されました。さらにG.O.T.O.イートのポイント

事業を活用してオンライン予約にも対応し、相談中スマホに新規予約を知らせる自動メッセージが着信することまでたびたびありました。その他、G.O.T.O.イート食事券、G.O.T.O.トラベル地域共通クーポン、有田川町応援クーポンと管轄が異なり、手続きが煩雑な公的制度全てに対応。よろず支援拠点では、公的施策の情報提供や申請支援などを実施しました。事業継続のために今で

きることは全てやる、終始伝わってきたのはその覚悟です。

我々も苑田さまを見習い、事業者支援のためにもう他に何かできることはないか、という姿勢で臨まなければいけないと決意を新たにしました。本年もよろしくお願い申し上げます。

和歌山県よろず支援拠点
和歌山市本町二丁目1番地
フォルテワジマ6階
URL <http://yorozu.yarukiouendan.or.jp/>
TEL 073・433・3100

